

あつけない梅雨明けと共にやってきた熱暑の日々。老いも若きも熱中症注意報の下に……。会員のみなさまお元気でしょうか？園では夏祭りの催しにお忙しいころですね！？大学では試験のまっ最中でしょうか？どうかみなさま、心身共にお健やかにお過ごしください。この度、『保育における感情労働』が3刷りされることになり、関係者の所属等の変更を調べて、北大路書房に送ったところですが、第18回保育の感情労働研究会の開催地は、大震災に見舞われた仙台で行われます。参加者がいつもの半分くらいで、少々寂しいのですが、充実した研究会になることを期待しています。今回はこの春、東北大学で博士号を取得された香曾我部琢さんが、その心得を語って下さいますので、災害現場の学びと共に大いに“研究のコツ”を学び取っていただけたらと思います。

保育の感情労働研究会通信第5号は、3月の発達心理学会、5月の保育学会を機縁にして、また友人からの誘いに応じて研究会会員になられた方々の紹介、および会員の方々のご意見をご紹介します。

福祉法人 育慈会 (いくじかい)

ことぶきイーサイト保育園

園長 高田綾さん

感情労働研究会のみなさま初めまして。高田綾と申します。埼玉県熊谷市にありますことぶきイーサイト保育園の園長をしております。

東京未来大学の野田先生と、立正大学の野澤先生から御紹介を頂きこの度この研究会に参加させていただきました。保育現場に身を置き始めてからまだ7年です。それ以前は4年間ほど病棟で看護師をしておりました。研究者としてはまったくの初心者です。

「感情労働」については、現場で出くわす事象や課題を振り返ったり考える時に外せない概念だと感じています。まだまだ未熟な名前ばかりの園長でお恥ずかしい限りですが、皆様と共に学んでいきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

新入会員紹介

倉敷市立短期大学

寺菌 さおりさん

感情労働研究会のみなさま、寺菌さおりと申します。倉敷市立短期大学、保育学科で講師をしております。神谷先生からご紹介を頂き研究会に参加させていただきました。

保育士養成の短大では子どもの保健や乳児保育、そして施設実習を担当しています。

看護師として社会で働いた後、大学へ編入し、研究職に就いてからまだ7年目です。

感情労働について、ゼロから学び、深めていきたいと考えております。

今後ともよろしくお願いいたします。

立命館グローバル・イノベーション研究機構・専門研究員 (PD)

木戸 彩恵 さん

皆さま 初めまして、立命館大学の木戸彩恵と申します。

現在、立命館グローバル・イノベーション研究機構というところで専門研究員 (PD) として勤務させて頂いております。現在は法心理・司法臨床センターという拠点での所属となり、震災の復興支援などに関する研究を行っておりますが、博士号の取得までは化粧の研究を続けて参りました (未だに、自分自身の専門としては、化粧やよそおいという方がしっくりきます)。

この会には、大阪教育大学の戸田有一先生にお声掛け頂き、関わらせて頂くようになりました。

今後は見た目の操作と感情労働がいかに関わってくるかということに関して、皆さまとともに考える機会を持ちたいと考えております。

今後ともお世話になりますが、どうぞよろしくお願い致します。



「見え方の操作と保育－感情・表情・化粧－」での発表を通して感じたこと

立命館大学立命館グローバルイノベーション研究機構・専門研究員 木戸彩恵

2013 年 3 月 16 日に、東京都の明治学院大学において開催された日本発達心理学会第 24 回大会のラウンドテーブル（企画責任：戸田有一，企画・指定討論者：諏訪きぬ，指定討論者：菅原健介・小川晶・小川房子，話題提供者：木戸彩恵）で、私は話題提供者として、「自己－他者の関係性の媒介としての化粧－保育場面で化粧の認識」というタイトルでの発表をさせて頂きました。

この発表では、第一に、保育とよそおいに関連する問題提起をした論文（木戸・戸田・諏訪・小川・小川（印刷中，エデュケア）の中核となる考え方を保育実践者ならびに発達心理学にご関心のある方々に向けてご提案させて頂くこと，第二に，ラウンドテーブル全体の指定討論をお願いした菅原健介先生に，よそおいあるいは自己提示という観点からご示唆を頂くことを目的と致しました。

指定討論の菅原先生からは，ワコールの cocoros 研究会との共同研究を元に，看護師の下着の話を例にしつつ，見えないよそおいの重要性についてお話を頂きました。また，社会心理学の概念を援用しつつ，よそおいがもつ「自由さのなかの不自由さ」「不自由さのなかの自由さ」をどのように考えるべきかについてのご示唆を頂きました。そしてフロアの先生方からは，現場の実状，実践者としての多様なご意見を頂きました。議論を振り返り，個人的には「ケア」と「自律・他律」をどのように考えるかが鍵となっていたと認識しております。

私自身が保育や幼児教育に全般に関しては専門外であることから，ラウンドテーブルの議論の中でフロアの先生方の実践に関するお話を伺いながら知識のなさ，現場に対する想像の足りなさを反省致しました。実際に保育実践によそおいを取り入れていく為にはクリアすべき課題も多く（特に，衛生面の配慮は重要な課題だと感じます），また，園や地域の方針もあり，一筋縄ではいかないという実状はよく理解できました。そして，会場にいらして下さった先生方には実感して頂けたと思いますが，よそおいに関して皆それぞれにこだわりを持っています。

それでも，今回の発表を通じて，保育と化粧がケアという概念を通して繋がりました。ケアは，目に見える形であれ見えない形であれ，自分自身や対象を慈しむという意味において大変重要な概念です。実際，昨年春の保育の感情労働研究会で私の発表を受け，実践活動の改善によそおいを取り入れて下さった先生もいらっしゃり，今後，そうした実践がどのように展開していくか，どのように意味づけられていくのか個人的には非常に楽しみでもあります。

折しも，幼保一体改革の導入が検討されているこの時期に，従来の保育という文脈，化粧という制限にとられるのではなく，ここで提示させて頂いた枠組みを皆さまと協働で考究し，自己のありかたや日々の実践，ケアの問い直しに繋げていきたいと考えています。

☆「見え方の操作と保育－表情・感情・化粧をどう考えるのか－」木戸彩恵・戸田有一・小川晶・小川房子・

日本保育学会自主シンポジウムを聞いて

保護者支援の感情労働について考える

名寄市立大学短期大学部 傳馬淳一郎

第 17 回研究会および保育学会シンポジウムでは、高橋真由美先生をはじめシンポジストの皆様、本当にお疲れ様でした。子育て支援という言葉を目にするようになり、その多様な理解に正直困惑して、目を逸らしていた時期もありました。しかし、今回あらためて感情労働の視点から捉え直そうとする試みによって、今一度「子育て支援」を考える機会を得ました。

自主シンポジウムの佐々木美緒子先生の報告では、保育園の先生方が子どもと正面から向き合い、苦しみながらも「組織としての考え方を明確にすることで葛藤を少なくする」との報告がありました。保護者との価値観の違いの中で、「それでも何とかしたい」と「子どもの最善の利益」を考え、「親御さんができないのであれば、やってしまえ」との潔い実践が心に染みしました。研究会での佐々木先生が「全国にいてくれたら」との皆さんの声に強く共感するところです。

☆認可保育所に勤務する卒業生からこんな話を耳にした！

所長・主任は、「きちんとした」ご家庭の保護者（公務員共働き、教師、肩書のある役職等についているなど）に対しては、非常に優しい口調で「お仕事大変でしょう」とねぎらいの言葉をかけるといふ。定時に退勤しているので、お迎えの時間にも余裕を持って現れる。それに対して、頼る身内も近隣にはおらず母一人で子育てをしている保護者には、いつも厳しい口調で「指導」を行うという。仕事で、お迎えの時間もいつもギリギリで息を切らせて駆け込む母親に対して、「もう少し早くお迎えに来ることはできませんか」との声をかけるといふ。そんな所長・主任の保護者への対応に憤りを感じながらも、自分は乳児クラスの担任として、子ども、親御さん方に向き合っているとしていた。1 歳に満たない子どもを保育所に預け不安を感じている親御さんに安心してもらおうと努めることで自分を保とうとしていたともいえる。親御さんがお迎えに来た際には、子どもの保育所での姿、家庭での様子、母親の仕事の話から日常の他愛のない話題まで、関係性を築こうと心がけていた。とにかく保護者が保育士 1 年目の自分が担任であることに不安を感じることをないよう、安心して仕事、子育てに向かうことが出来るように声をかけていた。そんな折、所長から呼び出され指摘を受ける。「長々と、親と話す必要はない」「もっとやるべき仕事がある」。早番勤務で早く退勤した際には、玄関先で担当児保護者と会話をするようにしていた。それでも、「いつまで油を売っているの」と厳しい指摘があった。結果、保育所の敷地の外に出て、事務室からは見えない場所で、保護者と話をするようになっていたという。

ピアノも苦手、先輩方のように数名の子どもたちを「束ねる」こともできず、「先生ナメられているよ」と日々言われ続け、唯一、保護者に安心してもらおうと心がけていたことにも、指摘を受けてしまう。「私は、保育士に向いていない…。年度いっぱい、退職を考えていた。そんな彼女が、「保育における感情労働」に出会った卒業生の一人である。

保育士、子ども、保護者にも引け目を感じ、保育士としてやっていく自信もなくモヤモヤした気持ちのまま 2 年目に突入し、出会ったのが「感情労働」です。初めはただなんとなく読み始めたのですが、今まで“こうするしかない”と言いつけてきたことや、“こうではいけない”と思っていた緊張感が一気に緩みました。（通信第 4 号より）

☆感情労働の視点から保護者支援を考えた際には、対「親」との関係からの感情労働を想起する。

しかし一方で、特にで、特に若手の保育者からは、「子育て支援も大切だと分かっているけど…」との声が漏れ聞こえる。保育士養成課程の中に「家族援助論」や「社会福祉援助技術」など

が必須科目となったのは2002年度^{注)}からであった。つまり、それ以前の保育士養成の中では、大きくピックアップされてきたものではない。

保育に求められるものは時代と共に変化を見せている。確かにその時々¹⁾の社会の要請に応じて保育者も専門性を高めようと努力を重ねてきたことは容易に想像ができる。一方で、その蓄積された経験によって個人の保育観が形成されてきたともいえる。そうした『『保育は〜こうあるべし』『子どもが〜なときは、こうすれば上手くいく』という経験知の語り』¹⁾によって、保育が形作られていく。そこに新たな養成課程を経た若手の保育者が保育に参入してくる。当然、そこには大きな保育観の違いが見えてくる。

太田²⁾は若い(経験の浅い)保育者の特徴として、保育の中で問題にぶつかったとき関わり方や進め方で解決できるのに「それを自分の特性や能力のせいにしてしまい、解決方法を探せない」状況に陥ることを指摘している。こうした状況の解決には、「見方や判断が柔軟で多様」になる必要があるといえる。しかし、多様であるためには、多様な選択肢となる様々な保育観の交流が必要である。まして、若い保育者は、経験も浅いゆえに視野が広いとはいえない。

確かに職員同士では、対価を伴わないため「感情労働」とはいいきれない。しかし、このような状況下であれば、保護者や子どもに対してポジティブな感情労働を維持することは困難ではないかと思われる。

先の卒業生は、以下のように続けている。

ずっと引け目を感じていたほかの保育士に対しても、“最初はみんな同じ想いをもっていたのかな”“自分の気持ちをコントロールして苦しかったのでは”と思えるようになりました。きっとそれぞれの保育士が今まで積み上げてきた保育経験や保育観があるので、今すぐには“感情労働”が受け入れられるとは思いますが、感情労働を視点として保育を語れる日がくることを信じて、もうちょっと頑張ってみようと思います。(通信第4号より)

「保育における感情労働」の視点は、個人の保育観の摺合せの機会を生む可能性を持っている。「感情労働」という視点に出会っていなければ、恐らく彼女は、既に現場を去っている。経験年数の浅い保育者にとって、目まぐるしく変化する社会の要請に応えようとする現場に身を置くためには、自らの感情を冷静に見つめる機会(実際にそのような時間があるとはいいいがたいが)として、「感情労働」の視点を養成時代から触れておく必要があるのではないだろうか。保育における「感情労働」の存在を意識することで、他者の保育観を受け入れる可能性を有しているともいえる。

そんな思いから、保育者養成の教育実践としてゼミ生への「保育における感情労働」の導入に至った。しかし、現場経験の浅い学生が「感情労働」に触れることは、リスクもあるように感じていた…。(つづく)

(1)山内紀幸(2007)保育行為の臨床哲学. ナラティブとしての保育学. 萌文書林. 177-191

(2)太田光洋(2009)社会の変化が保育に及ぼす影響と保育を支えるもの. 発達118. Vol.30. ミネルヴァ書房. 2-8

(注)2000年「保育所保育指針」改正により、多様な保育ニーズへの対応(延長、夜間保育など)と地域の子育て家庭への支援機能を追加。

2001年「児童福祉法」改正により専門職としての保育士の国家資格化(名称独占、守秘義務)、保育士の業務拡大(児童の保育、保護者への保育の指導、地域・施設の子育て支援)が盛り込まれる。

それらを受け2002年「保育士養成課程改正」では、必修科目「家族援助論(講義)」、「社会福祉援助技術(演習)」(2002年度入学生より)が登場。2010年改正では、「家族援助論」は「家庭支援論」となり、新たに「保育相談支援(演習)」が新設(2011年度入学生より)された。

第18回 保育の感情労働研究会 in 仙台

7月20日(土)

- 14:00 仙台駅東口 集合
～17:30 仙台近郊の様子を見学、閑上復興市場や幼稚園、保育園を予定
(一度解散) 香曾我部さんの博論レクチャ
19:00 懇親会 (仙台駅周辺で行う予定です)
イタリアン: デル・カピターノ

7月21日(日) 宮城教育大にて

- 9:00 保育学会自主シンポの報告と今後の課題
香曾我部琢
9:30 研究発表「保育者の自己形成プロセスにおける葛藤」 香曾我部琢
10:30 研究発表「男性保育者の離職に関する研究」 藤田清澄
12:30 今後の研究会について「感情労働第2巻の発刊に関して」 上月智晴
13:00 解散

「保育における感情労働」第2巻の発刊に向けて

上月智晴さんが提起してくださるのは、今までの学会でのシンポジウムなどを下敷きにして、“保育者養成”を主軸に置いた感情労働の本を第2巻として執筆したらどうか、というものです。広く問題をとらえれば、保育者のよそおい・化粧・服装も入りますね。

会員の方々が今までに保育者養成に関連した論文もいろいろ書いておられると思いますので、それらも皆さんで共有して、問題提起できる書を出したいと思います。PDFにして添付していただけるとよいのではないのでしょうか？

また養成校にお勤めの会員の方々も多いので共同調査もいいですね。会員の皆さまの積極的な提案、ご意見をお待ちしています。

四国からの参加です。

おいて行かないでね！

兼間和美

はじめまして。四国、徳島県、四国大学生生活科学部、児童学科で 昨年より講師をしております兼間和美(かねま かずみ)と申します。

感情労働研究会には、昨年の保育学会で上月先生にお声をかけさせていただき、入会させていただきました。司会をされていた、上月先生に帰り際に、突然、声をかけさせていただき、名刺を頂戴し、学に帰りまして、即、入会という経過があります。あの時は、本当にぜんぜん面識のない上月先生も、びっくりされただろうと、今でも、反省しきりです。もう、何度もお伝えしましたが、上月先生、あの時は、本当に ありがとうございます。

さて、私は、30年ほど、徳島市の公立保育所に勤務していましたので、保育実践には、自信があるのですが、大学教員としては、まだまだ勉強不足です。「感情労働研究会」につきましては、

保育士をしていました頃、諏訪先生はじめみな様の本と出会う機会があり、今回も、またとないチャンスと考え、参加させていただくことにしました。

どうか、よろしくお願いします。大変わかりやすい、地図つきのとても丁寧なメールをいただき、また、ゆったりとしたスケジュールにも、感謝しています。

大学で、授業の合間に、何とか仙台へ・・・といういろいろ考えました。ただ、四国からですので、大阪伊丹空港より仙台空港まで飛行機で行くことになっています。何も、なければ、13:00に仙台空港着なのですが、14:00に待ち合わせ場所まで、いけるのでしょうか・・・。

なんとか、スムーズに行けることを願っています。

当日、お会いできることを楽しみにしています。

編集後記

☆宮城県南三陸町の保育支援を2011年6月から始めた私は、仙台市の荒浜地区の現地を訪ねることのできる今回の研究会に、もっと多くの会員の方の参加を切望していました。聞くのと見るのは大違い、現地に立ってみると、一度奪われた故郷が再生されるまでの日時の長さに気が遠くなってしまう。荒浜小学校にもプレイス奥富の脇にある奥富小学校の生徒さんの作文を添えて児童書などを送りましたが、お返事が小学校に届いたのは半年近くたってからでした。今も間借りした小学校で、学校生活をされているのでしょうか？

★南三陸町の保育者の皆さんも災害が忘れ去られるのが辛い・・・とおっしゃっています。第18回研究会を機会に、災害と保育についても論議できる場が出来たら・・・と思います。猛暑の日々、どうか熱中症にも気をつけて、元気にお過ごしください。(諏訪記)